

【天気予報】

天気は数日の周期で変わりますが、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。気温は、平年並または高い確率ともに40%です。

	平均気温 (℃)	最高気温 (℃)	最低気温 (℃)	降水量 (mm)
2017年	8.5	13.1	4.5	56.5
2018年	10.2	15.5	5.3	175.0
2019年	9.9	14.4	5.6	89.5
1981~2010年	9.0	13.1	5.0	91.5

※気温については、1ヶ月の平均値

【作物】

1 麦

(1) 穂肥

施肥時期は、11月中・下旬播種のチクゴイズミで出穂前25~20日(3月中旬頃)、ハルヒメボシで出穂前30~25日(3月上旬頃)頃が適期です。

施肥量は、葉色と生育量(草丈、茎数)を見て、化成444を15~20kg/10a施用して下さい。

(2) 排水溝の点検

春先の降雨による根傷みは、収量や品質を大幅に低下させる原因となります。排水溝の点検・作溝を行い、雨水の排出促進に努めて、湿害を防止して下さい。特に、排水溝は必ず圃場の外まで導いて、雨水を排出して下さい。

(3) 赤かび病の防除

赤かび病は開花から約10日間が最も感染しやすく、この時期に温暖(気温15℃以上)で連続降雨があると発生が多くなります。そのため、防除適期は開花期(通常、出穂期の5~7日後)で、この時期の防除は必ず実施して下さい。

また、1回目の防除後も温暖多雨で多発が予想される場合には、7~10日後に2回目の防除が必要です。薬剤は1回目は小麦・裸麦ともトップジンM水和剤1,000~1,500倍、2回目は小麦はトップジンM水和剤、裸麦はトリフミン水和剤1,000~2,000倍を散布して下さい。

2 水稻(雑草の総合防除)

難防除雑草のオモダカ、コウキヤガラ等は単一除草剤の一時期処理では完全に防除することは困難で、耕種的な防除(水稻収穫後の水田の排水による乾田化や冬期耕起、畦畔の除草等)と除草剤の体系処理を組み合わせた総合的な防除を繰り返すことが大切です。

<松本>

【野菜】

1 さといも

(1) 種芋消毒

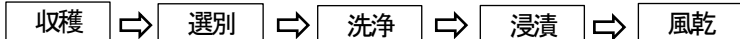
安定・高品質生産のために、種芋消毒を実施して下さい。

ア 薬剤名

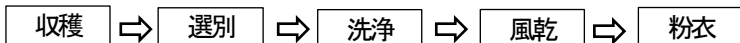
薬剤名	病害名	使用方法及び注意事項
ベンレートT水和剤20	黒斑病	○種芋浸漬 20倍 1分間 又は、 ○種芋粉衣(種芋重量の0.4~0.5%)

イ 消毒方法

①種芋浸漬



②種芋粉衣



③処理のポイント

収穫…確保する圃場は、疫病・乾腐病・軟腐病の発病が少ない圃場を選定して下さい。

選別…劣化・腐敗していない種芋(200~250kg/10a)を、子芋と孫芋に選別します。

洗浄…種芋の表面に土が付着していると、消毒液が種芋に付着しないので、洗浄して土を落として下さい。

浸漬…種芋を20倍・1分間浸漬後、良く乾かしてから植付けして下さい。

粉衣…種芋に均一につくよう少量ずつ粉衣して下さい。

④注意点…種芋浸漬・粉衣を行う場合、必ずマスクを着用して下さい。

(2) 植付け準備~植付け作業

ア 畝立ては畝幅110~115cmで、土入れ時に畝の上に土がしっかり乗るように成型して下さい。

イ マルチングは、畝に適度な水分がある状態で、黒マルチを被覆します。

ウ 植付けは、株間30~35cm、深さ15cmとして下さい。

(3) 害虫対策

ア コガネムシ類幼虫の被害が多い圃場は、必ず植付け前にダイアジノンS Lゾル(50倍、1000/10a)を散布し、速やかに土壌混和して下さい。

イ アブラムシ類対策で、植付け時にアドマイヤー1粒剤(4kg/10a)または、アクタラ粒剤5(6kg/10a)を植溝に土壌混和します。

(4) 疫病対策

圃場に放置されている親芋等残さは、速やかにロータリーで粉砕して下さい。

2 やまのいも

(1) 種芋準備・消毒

ア 無病で優良な種芋(200~250kg/10a)を準備して下さい。

イ 蔓首を切り除き、1個切片芋が50g程度になるように切断します。

ウ 種子消毒は、青かび病対策のためにペルコートフロアブル(200倍、10分間浸漬)して下さい。その後、種芋1個片50g程度に切りベンレー

トT水和剤20と消石灰を混和し粉衣(消石灰10kg、ベンレートT500g)。

(2) 植付け作業

2条植えは、畝幅110~125cm・株間33~40cmの2条千鳥植え。

1条植えは、畝幅100~110cm・株間25~30cm。

(3) 害虫対策

ア コガネムシ類幼虫の被害が多い圃場は、必ず植付け前にダイアジノンS Lゾル(25倍、1000/10a)を散布し、速やかに土壌混和します。

イ タネバエ対策で、植付け時にフォース粒剤を4kg/10aを植溝に土壌混和します。

<山口>

【果樹】

1 せん定

(1) 温州みかん

みかんは、高品質な果実を着果させるために亜主枝は水平からやや下向きに配置し、側枝や結果母枝は込み合った部分の立ち枝を基から間引いて柔軟な樹形を目指します。

結果母枝が多く着花が多いと予想される樹は、せん定は早めに行い、発芽までには終わるようにします。切返しや予備枝を設定し、春枝(発育枝)と着花量のバランスを整えます。

昨年産の着果が多く、結果母枝が少ない樹は、せん定の実施は遅めで程度は軽く、着花確保に努めて下さい(着花確認後の軽いせん定でも可)。

(2) 中晩柑類

樹勢を保ち、樹冠内部まで日が当たるように独立樹を目指します。同年枝や競合枝の整理、亜主枝上の立ち枝・下垂枝の除去、外に伸びすぎた枝の追い込みなど、樹の骨格を整えます。また、樹勢が低下している場合は、切返し剪定で強めの新梢の発生を促します。

2 春肥

春肥は、新梢の充実、開花結実促進、幼果肥大に不可欠なため、発芽前にしっかりと施します。なお、有機率が高い肥料の場合は、やや早めに施用して下さい。

3 病虫害防除

マシン油乳剤の散布は、発芽前の3月中旬頃までに実施して下さい(但し、厳寒日は散布しない、冬期に2度散布しない)。散布濃度は95%製剤45倍(樹勢が弱い樹では97%製剤60倍が適当)ですが、商品により登録内容が異なるので使用時に農業ラベル表示を必ず確認して下さい。

かいよう病に弱い甘平等の品種では、せん定時に罹病した枝葉を除去し、園外へ搬出して処理します。また、発芽前までにICボルドー66D(マシン油乳剤を散布する場合は2週間以上空ける)を散布して下さい。

<守屋>

【花き・花木】

1 シキミの定植と防除

日当たりと排水の良い圃場を選び、pH5.5~6.0の弱酸性土壌にしておきます(苦土石灰60kg/10a)。直径60cm×深さ30cm程度の穴を掘り、根を広げ根の間に土が入るように定植します。栽植密度は44~55本/a(株間120~150cm×条間150cm)です。

3月下旬にダイリーグ粒剤12kg/10a(またはアドマイヤー粒剤6kg/10a)を散布し、アブラムシとグンバイムシの防除をして下さい。生育が悪い圃場では、MB粒状固形を20kg/10a施肥し樹勢を回復させて下さい。

2 アネモネ・ラナンキュラスの摘花

球根を肥大させるため、花はすべて摘花し、圃場の外に出します。

<安藤>

【畜産】

耕種農家が堆肥をほ場に入れる時期です。

**農家に求められる完熟堆肥を作るためのポイント**は、適度な水分に調整して好気性菌が十分活動ができるようにする点にあります。

家畜生糞の水分は一般に75~85%あり、そのままでは発酵が進まないため、水分の少ないオガクズやもみガラ、戻し堆肥などの水分調整剤を加えて調整する必要があります。

**堆肥舎に堆積するスタート時点の調整生糞の目標水分は、70%前後がベスト**です。水分調整の目安は以下を参考にしてください。

調整生糞の水分を70%にするための水分調整剤の必要量

生糞の水分	生糞1tに混ぜる水分調整剤の必要量	
	オガクズ(水分25%)のみ	戻し堆肥(水分60%)のみ
75%	111kg(約1割)	500kg(約半分)
80%	222kg(約4分の1)	1,000kg(約同量)
85%	333kg(約3分の1)	1,500kg(約1.5倍)

なお、10Lバケツで確認する場合は、調整生糞をすりきり一杯入れた重量が、5~7kg程度になれば適正です。

堆肥の発酵が進むのは堆積した表面に近い数十センチ程度の部分であり、空気の届かない深層部では発酵が進みません。堆肥全体がまんべんなく完熟するためには、定期的な切り返しが必要で、切り返し後60℃以上の発酵温度を維持する必要があります。堆肥の切り返し作業は、**最初3回は1週間おき、4回目以降は2週間おきに行うのが最も効率的です。**

<住吉>